

イス・机素材は紙100%

日本化工機材が受注生産

紙製品メーカーの日本化工機材(神奈川県相模原市、大沢浩一郎社長)は紙製の家具を開発した。九月からイス、テーブルなどの受注生産を始める。古紙の配合率は90%以上で、環境負荷の軽減につながる。同社が梱包材向けに独自開発した管状の素材を使っており耐久性も高い。紙だけでできた家具は珍しく、環境意識の高い個人や企業に売り込む。



すべて紙でできたイスとテーブルのセット



日本化工機材が開発したリニア紙管

「優シリーズ」という。スツール型のイスは名前で、イス、テーブル、二脚で約四千円、背もたれ付きのイスは約九千円。書籍棚などオーダー

「優シリーズ」という。スツール型のイスは名前で、イス、テーブル、二脚で約四千円、背もたれ付きのイスは約九千円。書籍棚などオーダー

強化段ボール並みに丈夫という。イスや机の脚の部分には同社が開発した「リニア紙管」を使う。紙の巻き方を工夫したのが特徴で、重量がかかっても直線を保てる。紙をらせん状に巻いた従来の管は非

対称であるため、形にねじれができやすかったという。スツール型のイスは重さ七百グラム、背もたれ付きのイスは二百グラム、重さに耐えられる。古紙を90%以上使用しているうえ、家具を作る際の二酸化炭素(CO₂)排出量も木や金属

の家具に比べて少ない。環境意識の高い個人や企業の需要を開拓する。単身赴任する人が一時的にテーブルなどを購入したり、企業が環境配慮の姿勢をアピールするため

EM(相手先ブランドに紙と同じような材質で、

原材料には、古紙100%の紙管原紙と呼ばれる紙を使用する。トイレ

「優シリーズ」という。スツール型のイスは名前で、イス、テーブル、二脚で約四千円、背もたれ付きのイスは約九千円。書籍棚などオーダー